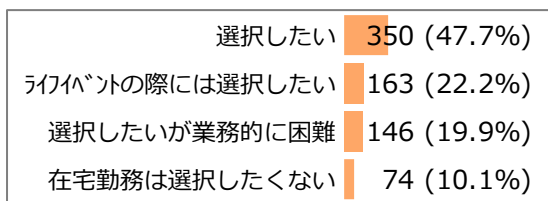
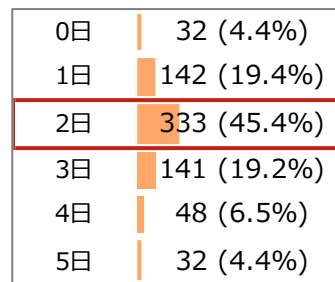


6. 在宅勤務という働き方の選択について



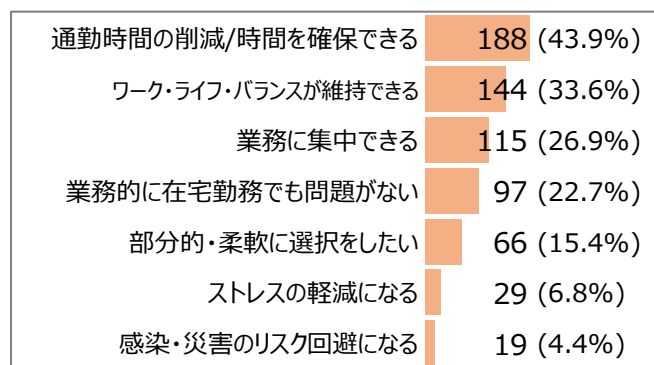
グラフ 15 コロナ終息後に在宅勤務を選択したいか(n=733)



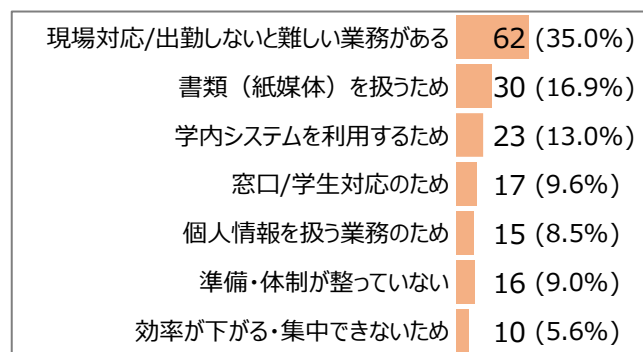
グラフ 16 理想の在宅勤務日数/週(n=733)

グラフ 15 は新型コロナウイルス感染症終息後、在宅勤務を選択したいかどうかを聞いたものである。「選択したくない」と回答したのは 1 割程度であり、9 割は、可能であれば「選択したい」という回答をしている。特に、グラフ 16 にあるように、全日（週 5 日）の在宅勤務ではなく、週に 2 日程度の在宅勤務（主に 1～3 日程度）と、通常勤務（大学への出勤）とを合わせて柔軟な勤務体制を選択できるようにしてほしいという希望が多い。

また、週 4～5 日の在宅勤務が理想と回答している人の約半数は、今回の在宅勤務では「業務効率が上がった」と回答していた。



グラフ 17 選択したい理由（自由記述）(n=428)



グラフ 18 選択したくない/できない理由（自由記述）(n=177)

グラフ 17 は、「選択したい」「イベントの際には選択したい」と回答した人の理由であるが、「通勤時間の削減・時間を確保できる（43.9%）」、「ワーク・ライフ・バランスが維持できる（33.6%）」を挙げている人が多い。通勤時間に関しては、往復 2～3 時間という人もいるため、その時間が削減されるだけでもワーク・ライフ・バランスへつながるだろう。

また、上記のように週に数日の在宅勤務を希望する人の中には、家族が病気になった際や、子どもが休校時など、有事の際に選択したいとの声も多い（イベントに関する意見については、次ページで言及する）。

業務に集中できるという意見については、在宅勤務で業務全体の効率が上がるというよりも、下記のように業務内容や状況にあわせて柔軟に選択することで効率が上がると考えられている。

○企画書や報告書の作成など、在宅勤務の方が集中できると考えられる業務があるため

○アイデアを練る際に一人きりの個室環境で行えると効率が良いため（既に作るものが決まっている場合は出勤し人目のある環境で行った方が捗る）

一方グラフ 18 は、「選択したくない」「選択したいが業務的に困難」と回答した人の理由としては、出勤しなければ業務が成立しない、在宅で可能な業務に限られるといった理由が主である。ここで上げられている在宅不可能な業務としては、「奨学金、授業料免除、郵送業務、学内専用システム」や「納品・検収印・FAIR 入力」、「工事の検査・立会やトラブル対応」などである。

【コロナ終息後の在宅勤務の選択について（自由記述 一部抜粋）】

〔選択したい〕

- 出勤時より、より集中して作業に取り組める。通勤時間がない分ワークライフバランスを保てる。子供が学校から帰宅後も孤独に留守番をせずに済む。
- 業務内容によっては在宅の方が作業効率が良いものがある。また、今後、家族を含めた自身のライフイベントや健康問題、あるいはコロナ以外の災害等が発生したときでも、迅速かつ柔軟に対応するためには、在宅勤務の環境やノウハウに継続的に慣れておくことは必要であると思われる。
- ネットワーク環境とパソコンがあれば自宅でも可能な業務が多々あるため。一方、現地打合せ等が必要な業務もあるため、週の半分程度を在宅勤務になるとバランスがとりやすい。
- ・在宅勤務でも業務内容にほとんど支障がなく、むしろ仕事に集中できる。・通勤時間に伴うストレスがなく終業後すぐに家事や通院、休息に移行できる。・ITを利用しての業務改善へ意欲的に取り組む良い機会となった。・風邪やインフルエンザ流行時にも有効である。・腰痛時には座卓や特別仕様の椅子でのパソコン作業も可能であったので、障害を持つ人にも在宅勤務で可能性が広がるのではないと思った。

〔ライフイベント（育児・介護・療養中等）の際には選択したい〕

- 今後介護などがあると、在宅勤務を選択できることはありがたい。
- 家族や本人の病気・ケガ時など、家を離れたいが本人が仕事（デスクワーク）はできる状況の時に欠勤なくて済む。
- 通勤時間分を朝晩の介護（孫の保育園の送迎も含む）の時間にあてられる。
- 自宅でする範囲の業務については、自分や家族が病気で出勤が困難な時は利用したいと思う。

〔選択したいが業務的に困難である〕

- 他の部課との業務調整のため、出勤してほしいとの要望がある。
- 対人サービス業務や、図書館の所蔵資料を用いた業務（レファレンス、相互利用など）は在宅では行えないため。
- 書類が全ては電子化されていないので紙ファイルでの確認作業が必要、個人情報処理などは在宅での処理は抵抗がある。
- 現状の業務では個人情報の取り扱い等の問題があるが、それらがクリアになれば通勤時間の削減等のメリットもあるため、在宅勤務も取り入れたい。
- 私の場合は、自宅の業務に邪魔が入る環境ではないので、職場と同じような環境（個人情報を含むシステム利用、PCやネットワークのセキュリティ強化）を自宅でも可能にできれば、100%在宅勤務でもよいと思いました。正直な所、窓口や電話での対応もせず、静かな心地よい環境で仕事ができるのは、集中して業務をこなせるのでとても良かったですし、（車）通勤のストレスやそれに係る時間を別のことに活用できたので有意義でした。
- IP制限されたシステムにアクセスが困難な為（セキュリティを含む）、自宅のネット及びPC等の環境が貧弱である、コミュニケーションをとらないとできない業務が多い等。

〔在宅勤務は選択したくない〕

- PC上のデータはともかく、紙媒体の資料を家庭に持ち込むのは紛失等の不安がある。大学から専用のWifiを貸し出すなど、持ち運び可能な職場のPCのみで自宅での作業が可能であれば、セキュリティ上の不安も少なく、在宅勤務のメリットは大きいと思う。
- 学内システムを利用する業務を在宅で安全に使用できる環境ができていないため。また職場と同等に業務をこなすには職場と同等のスペックのPC類が必要だと思うが自前で準備するには経済的にかなり負担。在宅していると家庭内での役割（母親）も期待されていしまう。家族の理解も必要。
- オンとオフの区別がつけにくい。在宅勤務の状況がまだ整っていない（机・椅子等）ので、仕事に集中しづらいため。
- 在宅勤務時の電気料、インターネット代がばかにならないと思う。